

『DF 経済・産業懇話会—日本産業は何を目指せば生き残れるか—』(第 120 回)

開催日： 2021 年 6 月 22 日 13 時 30 分～15 時 30 分

Zoom 懇親会 17 時 30 分～19 時

場所： Zoom DF651 会議室

参加者（敬称略）：

赤堀、石毛、岩橋、梅里、河井、岸本、小林（慎）、佐々木、生野、関口、戸田、立石、富田、中塚、野村、芳賀、濱名、原、原田、平井、牧野（義）、牧野（守）、萩原、真弓、宮崎、宮本、望月、矢島、山之内、山崎、浅野

1. 趣旨並びに本日の取り進め： (司会 浅野)

今回は濱名均さんの講話で「東京ディズニーランドの成功を企業家の目で見てみよう！」のタイトルでお話があった。濱名さんはオリエンタルランド創設時からタッチし、ディズニーの経営コンセプトを研究され、著書も書いておられます。このような大型テーマパークの成功と失敗例を挙げて、成功のカギとなることは何かのお話を頂いた。

2. 説明と資料について

講演に使った資料より講師のご厚意で、お話の骨子を PDF ファイルとして添付します。

3. 次回以降日程と討議項目

2021 年 7 月 28 日（水） 西村 誠司さん 「世界の先端に行くイスラエル（仮）」

2021 年 8 月 30 日（月） 濱田 健司さん 「日本のベンチャーの課題（仮）」

4. 今後の取り進めについて

運営・企画グループのより良い提案作成のため、皆様よりのご意見を歓迎いたします。

5. 今回の話題について

講演内容は添付資料でご参照ください。

主な質議

- ー ディズニーランドとハウステンボス、神近氏の精神論とディズニーとは何が違うのか
- ー ユーロディズニーが反対運動で開場が遅れたのはなぜか
 - ⇒ フランス文化にアメリカ文化の持ち込みに抵抗感
 - 当時は英語を話すことにも抵抗 今はそのような抵抗感はない

- 上海と東京で運営方法は同じか
 - ⇒ 基本は同じ、しかし指導は米国から 日本人から教えるキャパシティーがなかった。
 - なぜリピーターが多いのか、他のテーマパークは一度行けばもう十分という感じだが。
 - ⇒ 常に新しい企画や設備（5年以内に新たなアトラクションを提供）
 - ⇒ アルバイトの従業員も客とともに楽しみを与える。客はその対応を期待
 - ⇒ グッズなどを買いに来るだけの客もいる、楽しみが総合的
 - 土地が限られていて増設できないのではないのか 成長の余地があるのか
 - ⇒ 意外と場所は捻出、確保できる
 - 1968年当初の訪問時でも、圧倒的に故障のない施設と思った。
 - ⇒ メンテナンスに注力、設備は耐用年数の7掛け位で交換 専門部署で対応
 - しかし、創業当初は故障が多かったことから学んだ
 - 営業活動は必要なのか
 - ⇒ 広く知ってもらうこと、会社の行事や学校の行事に取り入れ努力
 - 遊園地は子供と親の世界、子供が大きくなれば行かない、TDLは若者も含めて顧客
 - 日本から文化の輸出ができるのか 総合的なマネジメントができるか
 - ⇒ 石川の加賀屋が台湾に日本流おもてなしを出したが、しばらく苦戦
 - 企業の思想はなにか
 - ⇒ Disney Way 濱名さんの著書参照されたい
 - 浦安の場所は船橋ヘルスセンターなど、微妙な地元の付き合いがあった。
事業化までの地元対応の裏話は残っているのか
 - ⇒ - - -
- この議論は興味があったが、時間切れで終了